

米株高を背景に日本株は3日続伸も、中国の利上げへの警戒感等が上値を抑える

2011年2月8日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部
副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

好決算やM&A活発化等を背景に米国株は連日の高値更新

欧州株式市場は続伸し、ストックス欧州600指数は2008年9月以来の高水準で引けました。中国による銅買い観測等から銅価格が過去最高値を更新したほか、鉱山銘柄の好調な決算と増配発表等が好感されて、資源株が堅調でした。一方、12月のドイツ製造業受注指数が前月比▲3.4%と予想(▲1.5%)を大幅に下回ったことから、独10年国債利回りは一時3.29%まで上昇する局面がありました。ただし、今回の大幅減については前月大幅に上昇した反動と冷静に受け止める見方も出ており、前年同期比では+19.7%と大幅な伸びとなりました。

米国株式市場は寄り付き後に上げ幅を広げ、NYダウ、S&P500ともに連日で高値を更新して引けました。好調な企業業績に加え、米産業機器メーカーによる米臨床診断システムメーカー買収合意、海洋堀削請負会社の英同業による買収合意など企業のM&Aの発表が相次いだことも相場上昇の一因となりました。

12月の米消費者信用残高は前月比+61億ドルと予想(+24億ドル)を大幅に上回り、3ヶ月連続で上昇しました。好調な年末商戦等によりクレジットカード融資が伸びて「回転信用」がプラスに転じたほか、自動車ローン向け需要の増加を背景に「非回転信用」も5ヶ月連続で増加しました。その結果、3ヶ月移動平均ベースでは2008年7月以来の高水準となりました。

世界景気回復期待や好業績等を受けた米国株高の流れを受けて続伸も上値は限定的

国内株は小幅高で寄り付きました。多くのセクターがプラスとなる中、保険や証券など金融関連株が上昇率上位に並んだほか、電機などの輸出関連株も堅調でした。また好決算銘柄を物色する動きも継続し、連日で高値を更新する銘柄も散見されました。ただし、全体的に上値を追う動きは限られ、値上がり銘柄数は徐々に減少し、前引け時点では株価指数はプラスながらも値上がり銘柄数は半数を割り込みました。後場に入り、銀行株を中心に上げ幅を広げる場面がありました。米国の投資銀行大手が、欧州の財政問題への懸念は徐々に和らぐとして、欧州の銀行セクターの見通しを約1年半ぶりに「強気」に引き上げたことが好材料視されたとの見方もありました。しかし、相場全体を押し上げるほどの勢いには乏しく、結局、日経平均株価は前日比+43円高の10,635円と小幅ながら3日続伸して引けました。ただし、値上がり銘柄数は全体の4割に満たず、半数以上の銘柄が値下がりしました。日本株高を牽引したのは銀行や不動産、保険、通信など内需関連を中心とした大型株の一角で、中国市場が旧正月に伴い本日まで休場となっているほか、休場明け後の利上げを警戒する見方も投資家の慎重姿勢につながっており、日経平均株価の日中値幅は25円と終日を通して膠着感漂う相場展開でした。

米国市場ではEPSベースで7割以上の銘柄が事前予想を上回る好決算を発表し、そのことが米国株高の一因となっています。国内市場も同様に概ね好調な企業決算が日本株を支えています。本日、引け後に発表された国内自動車大手の10-12月期決算は、純利益が前年同期比で約4倍の大幅増益となりました。通期業績見通しも大幅に上方修正し、経常利益については従来予想比+2,500億円増の6,600億円に変更しました。通期の販売台数見通しも引き上げており、時価総額の大きい当銘柄の明日の値動きに注目が集まっています。

以上